

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 月例セミナー

とき 平成23年5月20日(金)
16時～17時
ところ 農学部 BW106講義室(大講義室)

題目

リグナン、リグニン生合成の研究における新展開
—樹木の分子生物学—

講師

農学部教授 藤田 政之 博士

概略

植物科学における研究人口に占める、樹木領域の割合は、残念ながら小さいと言わざるをえない。主な理由としては研究材料としての樹木の扱い難さとともに、研究を遂行するに当たって比較的大きな研究基盤（研究費、施設、多様な専門分野の連携）が要求されるためであろう。しかし、植物界に占める樹木の割合は、量、質ともに巨大であり、木材、パルプ産業はもちろんのこと、医薬、食品、環境、エネルギー産業・部門などにおいて、樹木研究がもたらし得る商品価値、経済効果は決して小さくはない。

本講演では、樹木（Western Red Cedar (*Thuja plicata*))におけるフェノール化合物（リグナン、リグニン）の生合成・形成に関する近年の研究の進展について、演者が関わった研究の成果を交えながら解説する。

参考文献

1. Dirigent phenoxy radical coupling: advances and challenges, Current Opinion in Biotechnology, 16, 398-406 (2005).
2. Lignin primary structures and dirigent sites, Current Opinion in Biotechnology, 16, 407-415 (2005).

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)